

詩編 22 : 2~3

マルコによる福音書 15 : 33~41

「イエスさまの死」

【招詞】 イザヤ書 42 : 9~10a

【讚美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 3 2 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 107 「主イエスのみ名は」

【祈祷】

天におられる、わたしたちの父なる神さま、御名を賛美いたします。

今朝も、わたしたちに新しい命、新しい朝、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださったことを、心から感謝いたします。

これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの恵みの御心を、深く悟ることが出来るよう導いて下さい。この礼拝の中心に、生きておられる復活のイエスさまがいて下さり、豊かな交わりに与かって、わたしたちの信仰がますます力強く励まされますように。そして、聖霊によって新しくされ、今日から歩み出す一週間を、神さまの御心に従って歩む者とならせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】 詩編 22 : 2~3、マルコによる福音書 15 : 33~41

【説教】 「イエスさまの死」

<救いの十字架>

今日は、イエスさまが十字架で死なれる場面の御言葉です。

イエスさまの十字架の死によって、わたしたちは救われた。それが、わたしたちが信じていることです。

でも、よく考えれば、不思議な話です。どうして、約 2000 年前に、エルサレムの町で、一人のイエスさまという方が死んだことが、わたしの救いになるのか。どうして、わたしが救われるために、イエスさまという方が、死ななければならなかったのか。

イエスさまの十字架の死に、どういう意味があったのか。

今日は、特にイエスさまが叫ばれた御言葉から、わたしたちの信仰の最も根本的なことを、改めて見つめたいと思います。

### <神の子の叫び>

さて、今日の所でイエスさまは、十字架の上で、大声でこう叫ばれた、とあります。

「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味であると、書かれています。

イエスさまは、まことの人となられた、神の御子です。救い主として、この世に遣わされたお方です。

イエスさまが、神の御子であることは、おとめマリアに聖霊によって身ごもったことや、洗礼を受けたときに霊が鳩のように降り、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が天から聞こえたこと。多くの病人を癒されたこと。数々の奇跡を起こされたことなどで、明らかにされてきました。

しかし、最後にイエスさまは、人々に捨てられ、弟子たちに裏切られ、罪もないのに裁かれ、罪に定められ、鞭打たれ、罵られ、十字架に架けられています。

…これほどまでに、力のない、哀れな、惨めな救世主が、いるでしょうか。

神の子が、どうして「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」などと。「神さまに見捨てられた」などと、叫ばなければならないのでしょうか。

ある人は、神の子なら、その神の力を使って、自分で自分を救えばいいのに、と思うかも知れません。それは、まさに当時、この十字架を見つめていた人々も、まったく同じことを口にしていました。

またあるいは、神の子なら、もっと超然として、何も恐れず、英雄のように、堂々と死ねばいいのに。そう思う人があるかも知れません。歴史上の人物でも、確かに、もっと颯爽と、格好よく、死んでいった人がいたのです。

わたしたちにとって、「神の子」が、「救い主」が、こんなにボロボロにされて、悲痛な叫び声をあげて死んでいく、ということは、中々信じがたいことに違いありません。

ですから、教会の歴史の中では、「神の子が、神に見捨てられたと叫ぶはずがない」と言っ、イエスは神の子ではなく、結局ただの人間だったのだ、と主張する者もいたのです。

しかし、神の子が、極限の苦しみを味わい、極限の悲しみを味わい、絶望の叫びをあげられた。わたしたちの救いは、ここにこそあるのです。

このイエスさまの十字架のお姿によってこそ、わたしたちは、イエスさまが、まことに神の子であり、まことにわたしたちの救い主であると、信じる事が出来るのです。

### <神の審き>

今日の所には、イエスさまが死なれる時の状況が、詳しく語られていました。33 節には、こうありました。「昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。」

「全地が暗くなる」。これは、旧約聖書において、「神の審き」がなされるときに、起こることとされています。旧約聖書のイザヤ書には、こう語られているところがあります。

「見よ、主の日が来る／残忍な、怒りと憤りの日が。大地を荒廃させ／そこから罪人を絶つために。天のもろもろの星とその星座は光を放たず／太陽は昇っても闇に閉ざされ／月も光を輝かさない。わたしは、世界をその悪のゆえに／逆らう者をその罪のゆえに罰する。また、傲慢な者の驕りを砕き／横暴な者の高ぶりを挫く。」(イザヤ 13 : 9～11)

つまり、この暗闇は、神さまに背き、逆った、人間の罪に対する、神さまの怒りと、憤りを現わすものなのです。人に対する「神の審き」の暗闇が、イエスさまが十字架に架けられた、まさにその時、全地を覆ったというのです。

十字架に架けられたイエスさまは、すべての人間に等しく訪れる死を、恐れておられるのではありません。肉体の痛みや苦しみに、絶望しておられるのでもありません。

もちろん、痛みも、苦しみも、死も、恐ろしいことには違いないでしょう。

しかしイエスさまが、ここでまことに恐れ、もだえ、苦しんでおられるのは、「神の審き」に対してであり、まさにそれを、ご自分の身に引き受けることなのです。

#### <絶望の叫び>

イエスさまは、午前9時に十字架に架けられました。そして、昼の十二時になると、全地は暗くなり、それは三時まで続いたとあります。

イエスさまは、6時間ものあいだ、肉が裂かれ、血を流され、その痛みと苦しみを味わい尽くさなければなりません。

そして、とうとう死ぬ前に大声で叫ばれたのです。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」

この言葉は、今日読まれた旧約聖書の、詩編 22 編の御言葉から来ています。1～2 節にはこうありました。「わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／呻きも言葉も聞いてくださらないのか。わたしの神よ／昼は、呼び求めても答えてくださらない。夜も、黙ることをお赦しにならない。」

…この詩編の詩人は、苦しみの中で、どう叫んでも、求めても、神さまが答えてくださらない。神さまが遠く離れてしまい、呻きも言葉も届かず、見捨てられてしまった。そう感じて絶望し、苦しみの底で叫んでいるのです。

神さまから見捨てられる。それは、神さまに背き、逆らった、すべての罪人が、味わうべきはざのことです。この悲痛な叫びは、神さまの愛を忘れ、恵みを忘れ、背き、逆らい、離れ去った、罪人のわたしたちが。神さまの怒りを受け、やがてその罪を審かれるときに、叫ぶべき叫びです。

罪は、わたしたちを、神さまから引き離します。

そして、その罪の行く着く先は、神さまに見捨てられたと叫ばざるを得ない、神さまとの永遠の断絶なのです。

それこそ、わたしたちすべての人間が、罪人が、心から恐れるべき、まことの死。嘆き、呻き、叫ばなければならない、永遠の、滅びの死なのです。

そして、この叫びを、イエスさまが叫ばれた。それはつまり、イエスさまはここで、罪人の審きの死を味わっておられる、ということです。

そもそも十字架の死、つまり、木に架けられて死ぬことは、旧約聖書においては、神の呪いの死であるとされています。(申命記 21：22～23)

神さまは、すべての造り主であり、命を与え、養い、守り、導かれるお方です。すべての命の源であるお方です。

その神さまから引き離され、見捨てられ、死の中で、滅びに渡される恐ろしさ。

イエスさまは十字架の上で、まさにそのことを恐れておられるのです。この絶望を、叫んでおられるのです。

わたしたち人間には、その絶望は、知る由もありません。想像もつきません。わたしたちは、罪のゆえに、自分の罪の深刻さを理解することも、神さまの怒りを、その審きを、正しく恐れることさえも、出来ないからです。

神の御子イエスさまだけが、その本当の恐ろしさを、ただお一人、ご存知です。

<罪人の代わりに>

そして、その罪人の絶望の叫びを、ここで、神の御子イエスさまが、十字架に架けられ、ただお一人で叫んでおられるのです。それは、なぜか。

それは、わたしたち、すべての罪人の代わりに、罪の審きを受けておられるからです。

わたしたち人間は、誰一人、このような神の怒りに、神の審きに、耐えられません。

しかし、神さまは、そうしてわたしたちが審きを受け、罪に滅びていくことを、良しとはされませんでした。わたしたちが背いても、逆らっても、罪を犯しても。なお神さまは、お造りになったわたしたち一人一人のことを、愛し続けてくださるお方だからです。

ですから、わたしたちへの愛のために。わたしたちが滅びないで、これからも神さまと共に生きていくために。神さまは、ご自分の御子イエスさまに、わたしたちの罪をすべて担わせられたのでした。

だから、神の御子イエスさまは、わたしたちの身代わりとなるために、まことの人とならなければなりません。また、そのような絶望の底に立つことがお出来になるのは、神の御子でなければ、不可能なことでした。

だからこそイエスさまは、神の子でありながら、わたしたちと同じまことの人となり、どこまでも低く降って来てくださった。罪人であるわたしたちと同じ、絶望の底に。深い嘆きの淵に。いや、それよりも更に深く降って、わたしたちの更に下に立って、この絶望を叫んでくださったのです。

…「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」

イエスさまが、この叫びを叫んでくださったからこそ。わたしたちは、神さまに見捨てられる罪人の絶望を、まことにイエスさまが引き受けてくださった。わたしの代わりに、わたしの罪の審きを受け、わたしの滅びの死を、その身に負ってくださった。そのことを、知ることが出来るのです。

#### <神の子の力>

確かに、イエスさまは神の御子で、どのような奇跡も行うことがお出来になります。その神の全能の御力で、なんでもすることがお出来になります。

しかし、イエスさまは、その御力を、ご自分を救うためには用いられませんでした。

むしろイエスさまは、その何でも出来る御力を、わたしたちの救いのために、用いてくださったのです。

だからイエスさまは、その神の全能の御力で、わたしたちと同じ人となられた。その御力で、わたしたちすべての罪人の罪を、背負ってくださった。その御力で、わたしたち代わりに審きを受け、苦しみを受けてくださった。そして、その御力で、わたしたちの滅びの死を、ご自分の身に引き受けてくださったのです。

これが、神の御子イエスさまが、わたしたちのために成し遂げてくださった、十字架の御業、救いの御業なのです。

どうして、ここまでしてくださるのか。聖書は、それはただひたすら、神さまの、わたしたちへの愛のゆえだと語ります。

ですから、この出来事のゆえに、わたしたちは、もはやイエスさまにあって、神さまの罪の審きを、受けなくてよいのです。死んでも、神さまから引き離されなくてよいのです。

わたしたちの罪は、イエスさまが十字架の死によってすべて引き受けてくださった。だから、わたしたちは悔い改めて、ただイエスさまによって差し出されている、神さまと共に生きる命を、受け取ればよいのです。

父なる神さまは、イエスさまの十字架の死の後、その救いの恵みを明らかにするために、イエスさまを死者の中から復活させられました。

それは、もはやわたしたちの死が、滅びの死ではない。神さまから引き離される、罪人の死ではない。イエスさまの救いを受けた者は、神さまと共に生きる、永遠の命をいただき、やがては復活することが約束されているのだ、ということを、明らかにしてくださるためでした。この、罪の赦しと、永遠の命が、イエスさまの十字架と復活によって与えられた、わたしたちの救いなのです。

#### <共にいてくださるイエスさま>

また、イエスさまがそのようにして、神に見捨てられた絶望を叫ばれたことは。わたしたちがこの世で、どのような絶望の底を歩む時にも。どのような嘆きの淵に降る時にも。どのような罪の果てに追いやられる時にも。

どこにあっても、神の御子イエスさまが、わたしと共にいてくださるという、確かな証しなのです。

わたしたちもまた、人生の歩みの中で、神さまに見捨てられている、と感じることがあるかも知れません。苦しみや嘆きのどん底で、神さまの存在を疑い、見捨てられたと感じ、自分は神から最も離れたところに捨て置かれていると、感じることもあるかも知れません。

もはやどうしようもない罪の中で、完全な暗闇に閉じ込められて、どんな救いも一切ないように感じることも、あるかも知れません。

しかし、わたしたちの、どのようなどん底にも、イエスさまは共におられます。

わたしたちが、「神さまに見捨てられた」と叫ぶときがあるならば。まさにその只中で、わたしたちは、その叫びを叫ばれた、神の御子イエスさまを見出すのです。

わたしたちの苦しみや、嘆きや、絶望で、イエスさまがご存知ないものは、何一つありません。神に見捨てられる絶望でさえ、です。ですから、イエスさまの救いの御手が届かないところは、わたしたちの人生のどこにもありません。

そして、わたしたちは、イエスさまが味わわれた以上の、恐れも、嘆きも、滅びの死も、もはや、永遠に味わうことはありません。

それは、すべてイエスさまが、ご自分の十字架の上に、引き取ってくださったからです。

このイエスさまと共にあるならば。わたしたちは、叫んでも、嘆いても、倒れても。そして、たとえ死んでも、葬られても。なおそこにも、イエスさまは共にいてくださり、わたしたちを支え、起こし、立ち上がらせてくださるのです。

わたしたちは、その救いの御手を、取ればよい。差し出された命を、受け取ればよい。共にいてくださるイエスさまを、わたしの救い主として、心底、頼ればよいのです。

もはや、神さまに見捨てられ、祈ることもできない、と感じるときも。そこにもなお、わたしのために祈ってくださったイエスさまが。そして、「わが神、わが神」と、どこまでも神さまに向かって祈られるイエスさまが、共におられます。

どこまでも、神さまに向かい続けること。このこともまた、罪のないお方にしか、神の御子にしか、不可能なことに違いありません。わたしたちは、すぐ神さまから逸れてしまう。離れてしまう。逃れようとしてしまう。まさに、それこそが罪なのです。

しかし、イエスさまが共にいてくださるなら、わたしたちは、イエスさまによって、祈り続けることができる。父なる神さまに、近づいていくことが出来る。

そして、わたしには、神さまの愛と、憐れみと、赦しの御手が、常に差し出されていたこと。まことに、わたしには、イエスさま御自身が与えられていたのだ、ということに、気付かされていくのです。

十字架のイエスさま。この方こそ、まことなられた、神の御子であり、わたしたちの救い主なのです。

## 【お祈り】

天の父なる神さま

わたしたちを救うため、御子イエスさまに、わたしたちのすべての罪を担わせられたこと。イエスさまが、十字架の死によって、わたしたちが受けるべき、あなたの怒りと、審きを引き取ってくださり、わたしたちの罪の贖いを成し遂げ、罪の赦しを得させてくださったことを、感謝いたします。

また、わたしたちが、どのような苦しみを覚えるときも、暗闇の底にあるように感じるときも、御子イエスさまが、どこまでも共にいてくださいますことを、感謝いたします。

わたしたちは、もはやイエスさまの救いの御手にすっかり覆われており、この恵みから逃れることは出来ません。

どうか、わたしたちが、あなたの救いの御手をいよいよ信頼し、共にいてくださるイエスさまをますます愛し、聖霊によって、よりいっそう、あなたを賛美し、礼拝する者とされますように、どうぞ導いてください。

そして、イエスさまの十字架と復活の恵みを、一人でも多くの者が、悔い改めと、感謝をもって受け取ることが出来ますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 300 「十字架のもとに」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

## 【祈祷】

天の父なる神さま、御名を賛美いたします。

御言葉を感謝いたします。いつも共にいてくださる、十字架と復活のイエスさまにあって、この新たな一週間も、罪の赦しと、新しい命を与えられ、あなたを愛し、あなたに従い、いよいよあなたを賛美して、歩む者とならせてください。

またここに集う求道中の方々に、聖霊がお働きくださり、イエスさまが力強く出会ってくださり、信仰の道を備えてくださいますように、お願いをいたします。

今日の礼拝に、主の恵みを覚えながらも、集うことが出来ない兄弟姉妹を覚えます。どうぞ、一人一人が置かれている場所にあって、主が共にいてくださり、聖霊によって御言葉を届け、祝福を与え、慰めと、平安と、新たな力とをお与えください。

特に主よ、先日愛する一人の姉妹が御許に召されました。悲しみの中にあるご家族に、また寂しさを覚える兄弟姉妹に、どうぞ復活の主にあって、希望と慰めをお与えください。姉妹の信仰が、大切な方たちに、どうか受け継がれますようにと、祈り願います。

また、わたしたちの兄弟姉妹の中で、病にある者、弱さを覚えている者、また困難を抱えている者に、どうぞ、癒しと平安を与え、日々をあなたの恵みで照らしててください。

今ここに集うことが出来ない、お一人お一人に、この礼拝のみ言葉と、祝福と、恵みとを、聖霊によって、共に豊かに与らせてください。

どうか、この群れに連なる、お一人お一人の信仰を、強め、励まし、導いてください。

神さま、特に来月から、宮崎中部教会は無牧師の期間に入ります。しかしなお、主なる神さまが、この群れを御言葉で養い、豊かな恵みによって守り、導いてくださることを信じます。代務者を派遣してくださる都城城南教会、また説教者を遣わしてくださる九州連合長老会、全国連合長老会を、どうぞ祝しててください。そして、祈りと御言葉に支えられつつ、主の日の礼拝が、いよいよ恵み豊かに守られますように。そして来る四月には、感謝をもって新しい牧師をお迎えすることが出来ますように、よき備えをなさせてください。

同じ信仰に立つ群れが、共に祈り、困難を分かち合い、一つとなって歩んでくださることを感謝いたします。その中心に、主なるイエスさまがおられます。どうぞ、共に主に仕え、共に福音をますます力強く宣べ伝え、御心に従っていくことが出来ますように。

神さま、日本では各地で、自然災害が起こり、困難を覚えている方たちが多くおられます。どうぞ、あなたの助けと、守りがありますように。特に、その地に立てられた教会が、その中でこそ、慰めの御言葉を語り続けることが出来ますように、お支え下さい。

また、世界において、戦争や、国の混乱で、苦しんでいる人々を覚えます。特に、小さい者、年老いた者、弱い者を顧みてください。一日も早く、争いが終わりますように。そしてどうか、世界の一人一人が、隣人を愛し、互いに仕え合い、平和を造る者となることが出来ますように、あなたの御心を、わたしたちに、この地に、為してください。

特に主の体なる教会が、祈りと愛の業をもって、仕えていくことが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

#### 【讚美歌】 28 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン